

# ねりま小中一貫教育レポート

○●○ 第 17 号 ○●○

平成 25 年 3 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」今年度最終となる第 17 号は、吉村潔教育指導課長からのメッセージです。

## ◆教育論から出発した小中一貫教育

練馬の小中一貫教育は、子供たちの実態からみえる課題を解決する一つの方策として、教育論から出発しました。方策は他にもあるし、小中一貫教育ですべての課題が解決するわけではありませんが、小・中学校が一緒に、例えば「学力・体力を伸ばそう」「自己肯定感を高めよう」と取り組むことが大事であり、小中一貫教育が解決に向けた一つのきっかけになると考えています。

## ◆中学校区を基盤に進める

練馬の小中一貫教育は、中学校区を基盤に進めています。今まで各学校が積み上げてきた小中連携の取組を一步進めようとするとき、施設が離れている小・中学校間では、直接交流などどうしても限界があります。そこで、共通の考えのもとで小・中学校それぞれで指導する体制を作る、ということが重要になってくるわけです。

共通の考えをもつには、まず小・中学校の教員が、指導観、学力観、児童・生徒観を相互に理解しなければなりません。相互に理解するための具体策が「課題改善カリキュラム」の作成と考えています。

あえて練馬区共通の小中一貫カリキュラムを作成せず、それぞれのグループの実態にあわせて「課題改善カリキュラム」を作ってほしい、と言っているのは、小・中学校の教員が目の前にいる子供たちのために、一緒にカリキュラムを作成⇒実施⇒検証する過程で、9年間で児童生徒を育てようとする意識と小・中学校共通の指導方針をもてるようになると思ったからです。

## ◆課題改善カリキュラム作成の視点

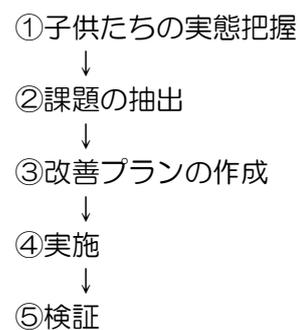
子供たちの課題を改善するカリキュラム作成には、複数の視点が考えられます。

例えば、子供たちがつまずきやすい単元については「時間数を増やす」。あるいは、復習の時間を追加して「繰り返しの指導」を行う。また、「問題解決能力」「観察・実験の技能」など9年間で身に付けさせたい力を共有し、どの学年でどこまで指導するのかを明確にして定着を図ることも考えられます。

### ◆課題改善カリキュラム作成のステップ

カリキュラムを作るには、まず互いの授業を見合うなどして子供たちの実態を把握することが必要です。実態を踏まえて課題の抽出を行い、最も顕著な課題が見られる教科等を選び、小・中学校で話し合っ改善プランを考えます。

カリキュラムは、作っただけでは意味がありません。カリキュラムを実施して、効果を見極める必要があります。



小中一貫教育実践校には、課題カリキュラムの検証を是非やってほしいと考えています。テストや授業の様子などで、課題が改善されたかどうか検証し、カリキュラムをさらに改善する。この作業がずっと継続され、当たり前のこととして為されていくのが練馬の小中一貫教育の目指す姿であると考えています。

### ◆大泉桜学園への期待

小・中学校が一つの学校となった大泉桜学園では、教育を進めるうえでの考え方など先生方の意識がかなり変わってきています。教員の意識改革ということも小中一貫教育の目的のひとつです。

開校3年目となる25年度には、小中一貫教育校としての成果をどういう視点で見ているか、学校と教育委員会で話し合い、検証計画を作る必要があると考えています。施設一体型ならではの成果と、どの小・中学校でも活かせるような成果があるはずで

### ◆校内研究と小中一貫教育

小中一貫教育を進めようとする、自分たちの希望する校内研究ができなくなる、という声があります。確かに、初めて小中一貫教育に取り組む研究グループとしての期間中は、校内研究と並立させるのは負担が大きいです。校内研究と研究期間をずらすか、校内研究のテーマを小中一貫教育で連携する教科や領域と重ねるとやりやすいと思います。本来的には、どの教科においても義務教育9年間というスパンで考えることで、さらなる研究の深まりが期待できます。

### ◆小中一貫教育で大切なこと

最後にお伝えしたいことが二つあります。一つは、今後の取組において少しずつ中学校区の特徴を出してほしい、ということ、もう一つは、小中一貫教育はアイデア勝負だということです。連携クリエイターの呼称もこのことに起因しています。

新たなことに取り組むためには苦勞があります。しかし小中一貫教育は、何か特別なことをやろうとしているわけではありません。小中一貫教育が「プラスアルファの仕事」ではなく、授業改善や児童生徒指導という当たり前の「ルーティンワーク」のなかで、こんなこともできるのでは、あんなこともやってみよう、と小・中学校がアイデアを出しあって進めてもらえればと思っています。